

# 鳥取県の観光

## —鳥取砂丘を中心に—

2 回生 豊本 絢女

### 1. はじめに

鳥取県の観光といえば鳥取砂丘や大山などの自然の観光地を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。また二十一世紀梨やらっきょうなどの農産物が生産され、カニやイカなどの海産物も水揚げされている。現在はカニが多く獲れるということで蟹取県として「ウェルカニキャンペーン」を行うなどそれらを活かした観光PRを行っている。そういった自然の観光資源だけでなく、漫画家の水木しげるや青山剛昌などの出身地であることを活かして「まんが王国とっとり」といったPRも行っている。鳥取県の観光地の中でも鳥取砂丘と水木しげるロードが特に多くの観光客が訪れている。本稿ではまず、観光客入込動態調査をもとに、鳥取県全体の観光の概要について述べる。次に鳥取県の観光地の中でも国の天然記念物として指定されてから約65年が経っても多くの観光客が訪れる鳥取砂丘に注目し、聞き取り調査や現地調査をもとに、鳥取砂丘における観光の特徴について述べる。

### 2. 鳥取県の観光の概要

図1は鳥取県の観光客入込数（実人数）のうち、日帰り観光客と宿泊観光客を区別して示したものである。県全体の観光客数は2000年から2019年までを見ると、2012年までは増加傾向で、その後は微減しているものの、安定して観光客が訪れていることが分かる。特に、2009年から2012年にかけて大きく増加していることが注目される。その理由として2点挙げられる。1点目は、2009年に鳥取自動車道の智頭—河原間が開通し、2010年に鳥取—河原間の開通と中国自動車道との接続、2013年には鳥取自動車道が全線開通したことが挙げられる。2点目は、2010年にNHKで放送されたドラマ「ゲゲゲの女房」の影響で、水木しげるロードに多くの観光客が訪れたと考えられる。2013年から若干減少しているのは、「ゲゲゲの女房」のブームが落ち着いたからではないかと考えられる。日帰り宿泊観光客はどの年を見ても7割程度が日帰り観光客となっており、鳥取県内や鳥取県に近い地域からの観光客が多いのではないかと考えられる。

図2は鳥取県を訪れる観光客を月別で示したものである。特に8月が多いことが分かる。8月に次いで5月、11月、4月が多くなっている。8月は夏休みやお盆があり家族旅行などがしやすいことが理由として挙げられる。同様に4月と5月もゴールデンウィークといった長期休暇があり、過ごしやすい季節であるからだと考えられる。秋や冬でも観光入込客数が安定している理由として、県内の温泉に行き、そこでカニを食べられることが考えられる。

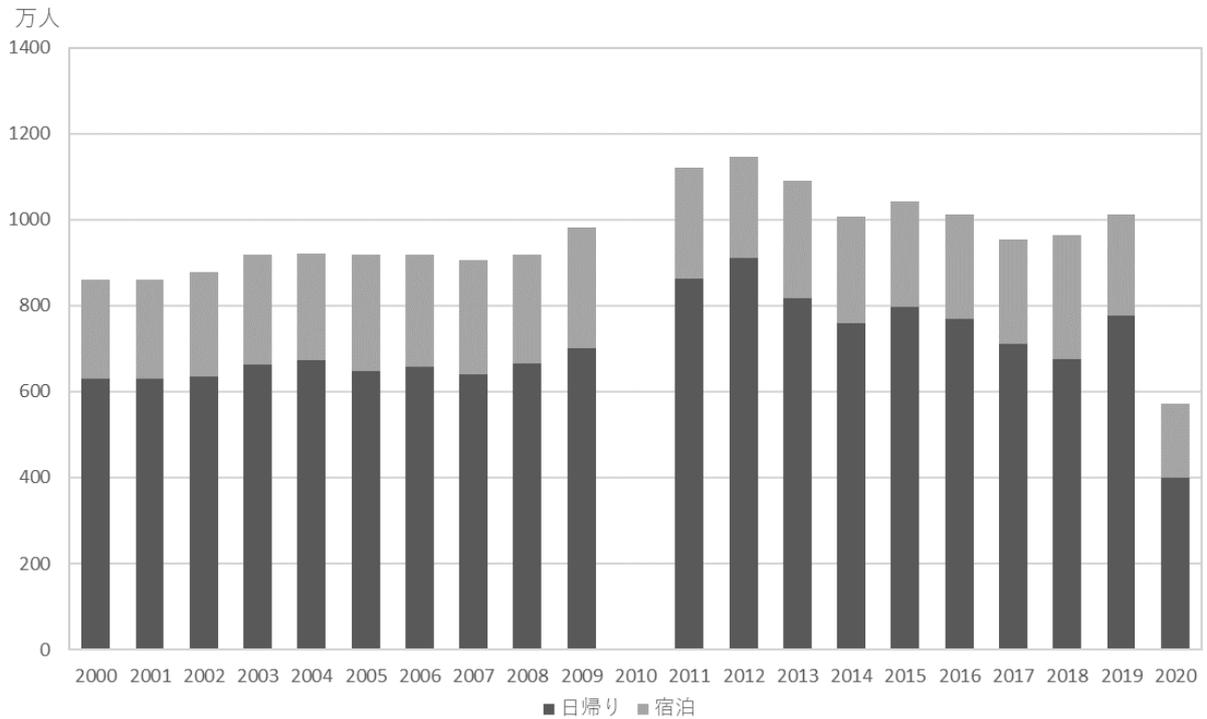


図1 鳥取県の日帰りと宿泊客数（実人数）の推移  
 （令和2年 観光客入込動態調査より作成）  
 ※2010年データなし

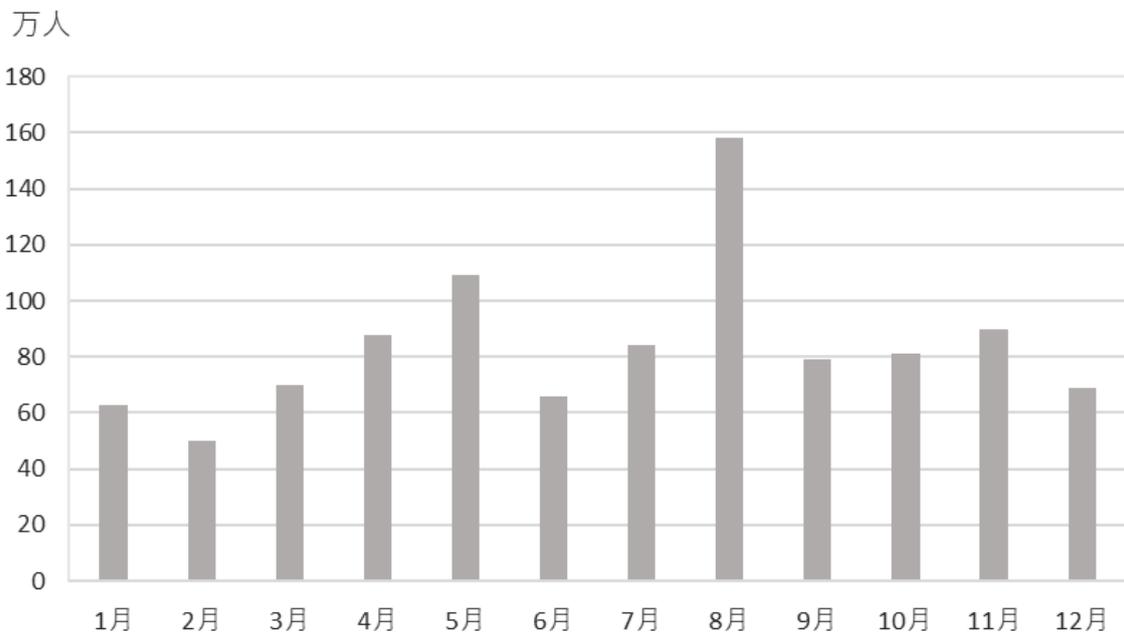


図2 鳥取県月別観光入込客数（実人数）（2019年）  
 （令和2年 観光客入込動態調査より作成）



合計：1119 万人

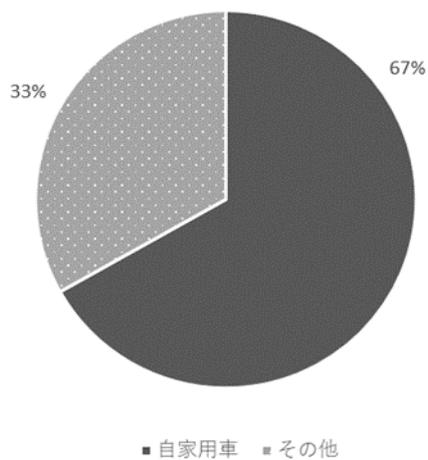
図3 発地別観光入込客数（2010年）  
（令和2年 観光客入込動態調査より作成）

図3と図4は、2010年と2019年に鳥取県を訪れる人がどの地方から訪れているのかを示したものである。2010年では約5割、2019年では約4割が県内観光客で最も多くなっている。次いで近畿地方、中国地方の順で多くなっており、両者とも約2割で大きな差はない。2019年では県内観光客が約4割に減り、関東・中国・近畿の3地方で約1割増加している。鳥取自動車道は2009年に智頭インターチェンジと河原インターチェンジ間で開通したのを始めに、2013年には鳥取インターチェンジと兵庫県の佐用ジャンクション間までの開通により、全通した。このことによって、近畿地方からの観光客数が増えていると考えられる。基本的に鳥取県に近い地方からの観光客が多いことが分かる。距離が近いにもかかわらず、四国は観光客数が少ない。理由としては鳥取県に直接つながる公共交通機関がないからと考えられる。また、近畿地方が多い理由としては、県内の観光地をテレビで取り上げる機会があり、身近な観光地という認識があるのではないかと県庁からの聞き取り調査で分かった。



合計：1009 万人

図4 発地別観光入込客数（2019年）  
（令和2年 観光客入込動態調査より作成）



合計：609 万人

図5 利用交通機関別観光入込客数の割合（2019年）  
（令和2年 観光客入込動態調査より作成）

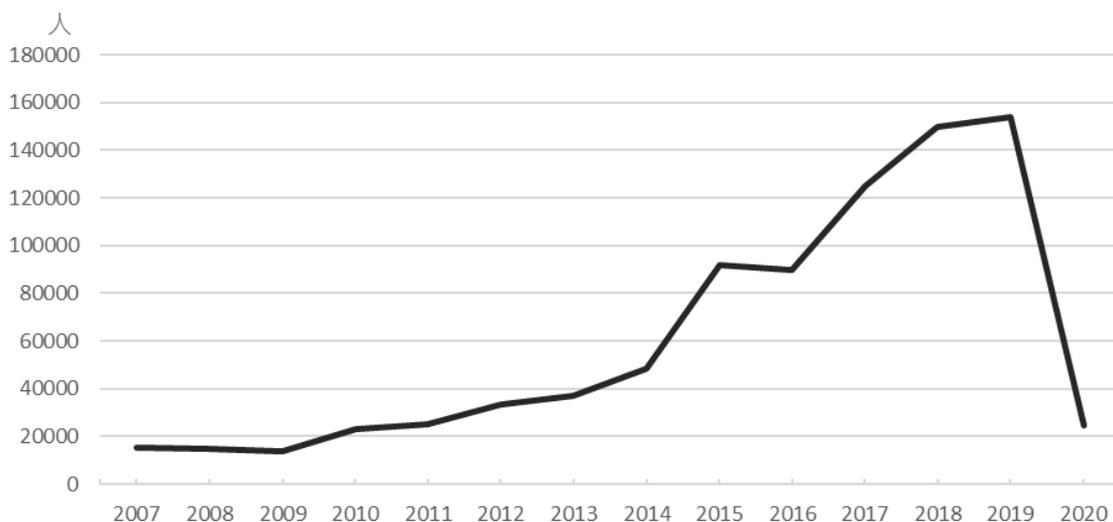


図6 外国人延べ宿泊客数の推移  
(宿泊施設従業者数10人以上の施設のみ)  
(令和2年 観光客入込動態調査より作成)

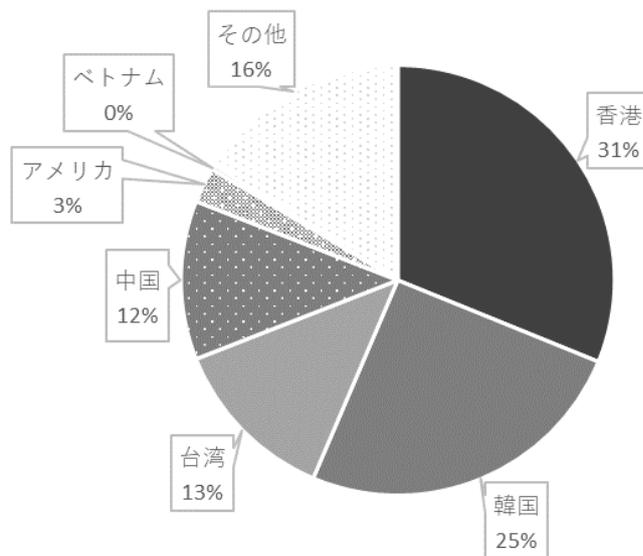
表1 国籍別外国人延べ宿泊者客数(宿泊施設従業者数10人以上の施設のみ)(単位:人)

	韓国	香港	中国	台湾	アメリカ	ベトナム	その他	合計
2013	16580	3560	2470	7030	2030	10	5230	36910
2016	35080	10890	13280	15500	1920	160	12980	89810
2019	38820	48050	18400	19490	4090	530	24690	154070
2020	590	6270	5440	3310	780	2090	6160	24640

(令和2年 観光客入込動態調査より作成)

図5は鳥取県を訪れた観光客が利用した交通機関の割合を示したものである。その他には列車やバス、飛行機などが含まれている。自家用車が70%近くを占めており、公共交通機関があまり利用されていないことが分かる。JRの本数が少ないことや、鳥取空港・米子空港ともに東京(羽田)便しかないことなど、公共交通機関が発達していないことが理由として考えられる。図3と図4で述べたように、鳥取県内や鳥取県に近い地方から訪れていることも自家用車の割合が多い原因として考えられる。

図6は外国人の延べ宿泊客数の推移を示している。2007年から2019年にかけて増加しており、全国的にも同じような傾向が見られる。全国の訪日外国人観光客数の推移も2014年から大きく増加しており、鳥取県も比例して増加していると考えられる。2016年で増加していないのは10月に発生した鳥取県中部地震の影響であると考えられる。2020年は新型コロナウイルスの影響で大幅に減少している。2014年から2019年にかけて大きく増加している。



合計：154070 人

図7 国籍別外国人延べ宿泊者客数の割合（2019年）  
（令和2年 観光客入込動態調査より作成）

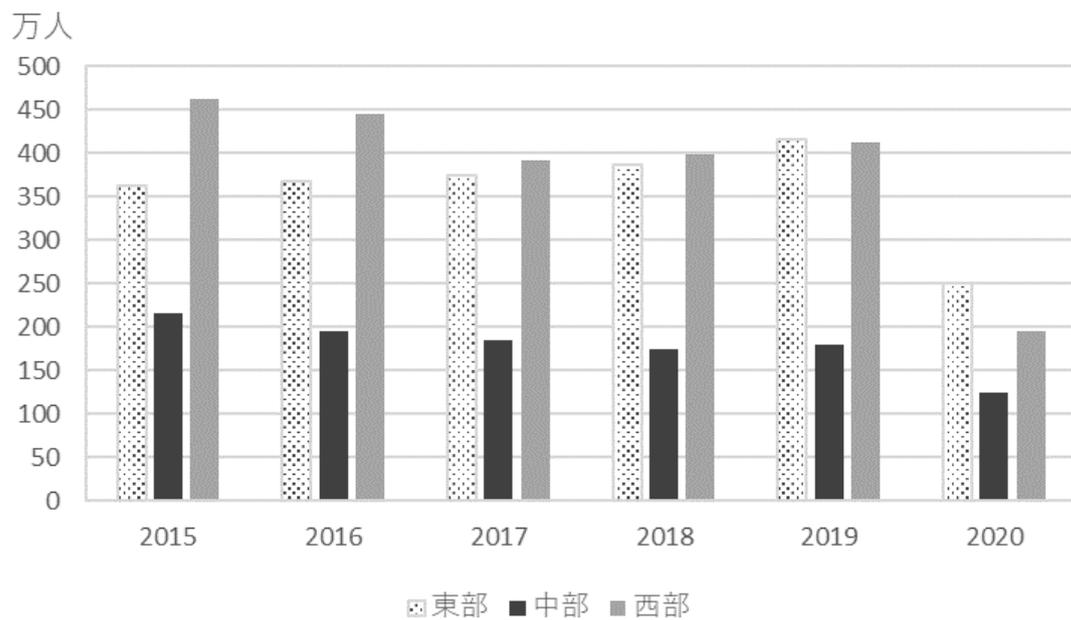


図8 地域別<sup>1</sup>観光入込客数（実人数）の推移  
（令和2年 観光客入込動態調査より作成）

表1は外国人の延べ宿泊客数を国籍別に分けて示したものである。2019年に香港からの観光客が大きく増加している。理由としては2016年9月に米子空港と香港との直行便が就航したこと、2018年12月に増便したことが挙げられる。2020年に韓国が大幅に減少しているのは、日韓関係の悪化及び新型コロナウイルスにより、2019年10月から米子ーソウル便が運休となっていることが原因と考えられる。また、香港便は2020年2月から全便運休となっている。一方でベトナムから訪れる人は増えている。他県でも同様に宿泊者数が増え、観光目的ではなく、職業訓練生が多く訪れていると聞き取り調査より分かった。

図7は表1で示した国籍別の宿泊者数の2019年度の分を割合で示したものである。香港、韓国、台湾、中国といった東アジアからの観光客が多く、この4か国で81%を占めている。これは米子空港との直行便があることが理由と考えられる。もし直行便が運休などで利用できなくなった場合に、現在のように集客が見込まれない可能性がある。

図8は鳥取県内を東部・中部・西部の3地域に区分し観光客数の推移を示したものである。3地域を比較すると、2018年までは西部の観光客数が最も多かったが、2019年には東部の観光客数が最も多くなっている。中部は東部・西部の半数ほどの観光客数になっている。西部が多いのは水木しげるロードや皆生温泉などの主要な観光地が含まれているためと考えられる。東部は主に鳥取砂丘や砂の美術館など、鳥取砂丘周辺に観光客が集まっており、以前から観光地として人気があることがうかがえる。中部と西部は若干の減少傾向であるにもかかわらず、東部は増加傾向にある。東部の中では八頭周辺が増加している。2020年には新型コロナウイルスによってどの地方も減少している。しかし、中部は東部・西部に比べて大きく減少していない。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けにくい施設が多いことや、中止したイベントの規模の違うことが原因ではないかと聞き取り調査で分かった。

### 3. 鳥取砂丘における観光

まず鳥取砂丘の概要について述べる。鳥取砂丘は山陰海岸国立公園に含まれている。1955年に国立公園に指定され、さらに1963年には国立公園となった。鳥取砂丘は東西16km、南北2.4kmにわたる砂丘で、中心部の146.2haが国の天然記念物に指定されている。砂丘内で風紋などの砂丘独特の風景だけでなく、砂丘に生息する昆虫や植物を見ることができる。こういった自然環境を守るために県民のボランティア活動で除草を行い、地域一丸となって景観を守っている。また、ゴミのポイ捨てや砂丘海浜での遊泳、砂上での落書きの禁止など鳥取砂丘の自然景観や生態系を守るため、2009年に「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」が定められた。観光の面ではラクダに乗ったりアクティビティを体験したりできる。これらは地権者の理解を得て、自然保護法を守りながら活動を行っている。

図9は鳥取砂丘における観光客数の推移を示している。観光客数を数えるカウンターを設置した2006年からの記録となっている。砂丘に入った人を0.5、砂丘から出てきた人を0.5と数えており、カウンター設置以前より正確な数となっている。2006年から2019年に

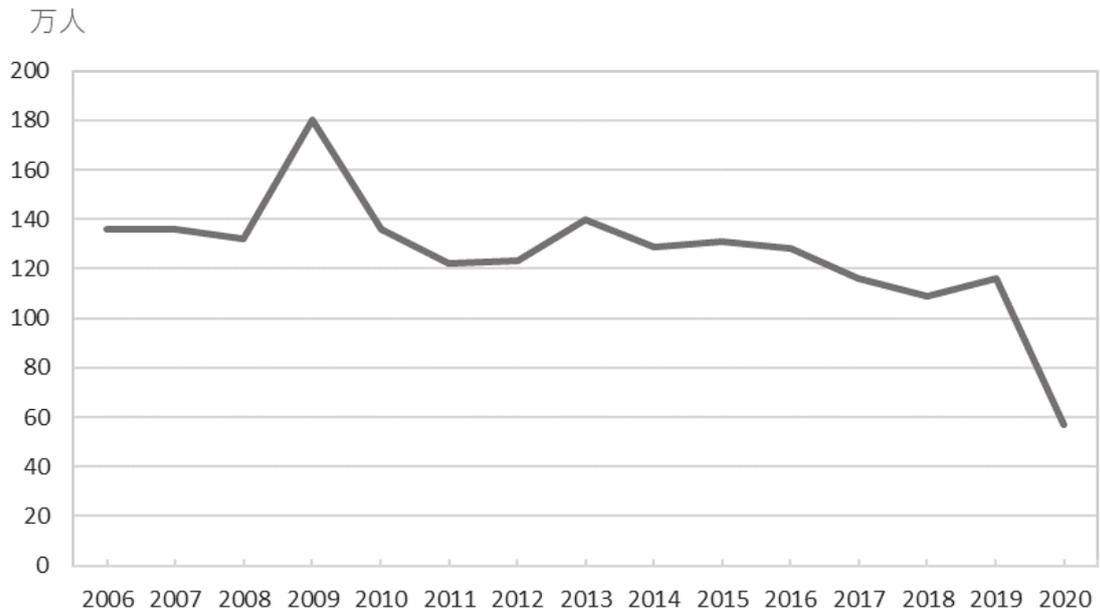
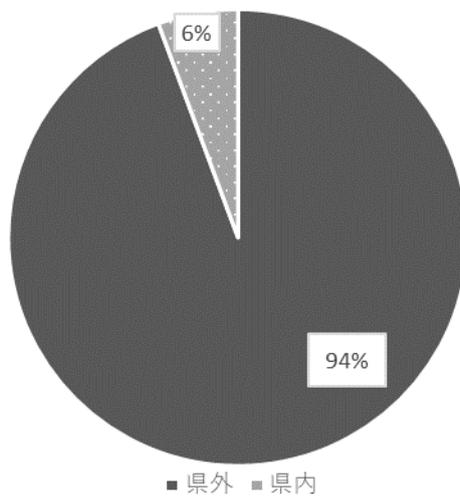


図9 鳥取砂丘の観光入込客数の推移（延べ人数）  
（聞き取り調査より作成）



合計：2462人

図10 砂の美術館の県内外観光客の割合（2019年4月13日～2020年1月5日）  
（砂の美術館 第12期 お客様アンケートより作成）



図 11 鳥取砂丘と砂丘商店街の位置  
(オープンストリートマップに加筆)

※図の枠は、図 12、図 13、図 14 の砂丘商店街の位置を示している。

かけて大きく減少することはないと、観光客数を維持できていると考えられる。2009 年に観光客数が大きく増加しているのは、世界砂像フェスティバルにおいて、砂像の展示やブルーインパルス飛行、花火の打ち上げなどが行われたからと考えられる。世界砂像フェスティバルは、2009 年 4 月 18 日から 5 月 31 日まで、鳥取自動車道初の開通（智頭―河原間）を祝う「2009 鳥取・因幡の祭典」のオープニングイベントとして開催され、ゴールデンウィークの期間に開催されたということもあり、多くの観光客が訪れたという。

図 10 は砂の美術館を訪れた県内観光客と県外観光客の割合を示したものである（2019 年 4 月 3 日～2020 年 1 月 5 日）。砂の美術館は 2006 年から屋外での砂像の展示を始め、2011 年には現在の屋内展示施設が建設された。砂の美術館を訪れた人は鳥取砂丘も訪れる可能性が高いと考えられるため、鳥取砂丘でも類似した割合になるのではないかと考えられる。図 3、図 4 で示したように、県全体では県内の観光客が多かったが、図 10 より鳥取砂丘においては県外からの観光客が約 9 割を占めていることがわかった。こうしたことから、県外観光客にとって、鳥取県といえば「鳥取砂丘」というイメージが根強いと考えられる。

図 11 は鳥取砂丘と、図 12～14 で述べる砂丘商店街の位置関係を表している。図 12 は 2000 年、図 13 は 2010 年、図 14 は 2021 年の砂丘商店街の土地利用を示している。砂丘商店街は 1960 年創業の「らくだや」を始めとして、1960 年代に創業した店が多い。これは 1963 年の鳥取砂丘の国立公園指定と関係していると考えられる。2000 年、2010 年、2021

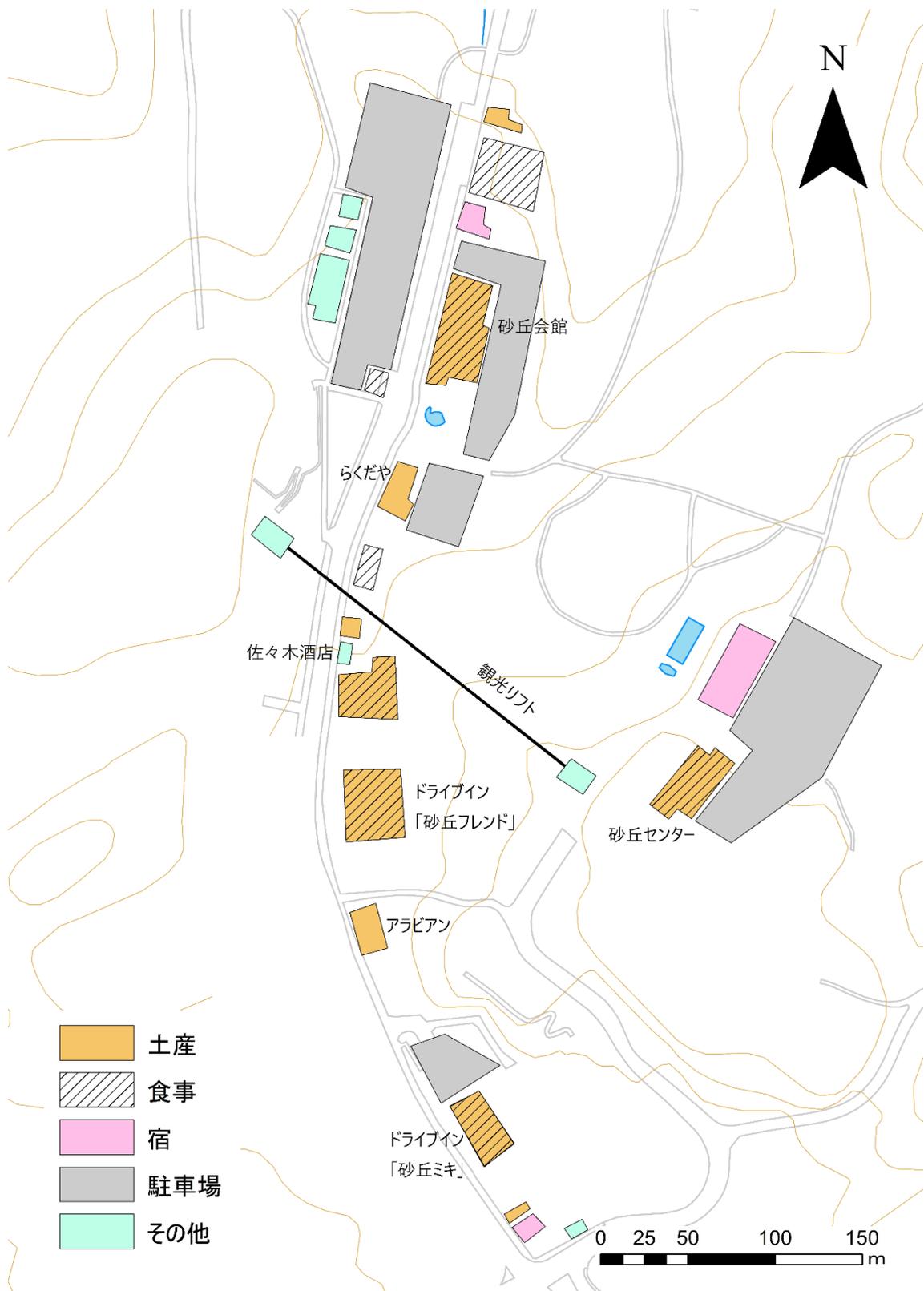


図 12 砂丘商店街の土地利用 (2000 年)  
 (住宅地図、聞き取り調査より作成)

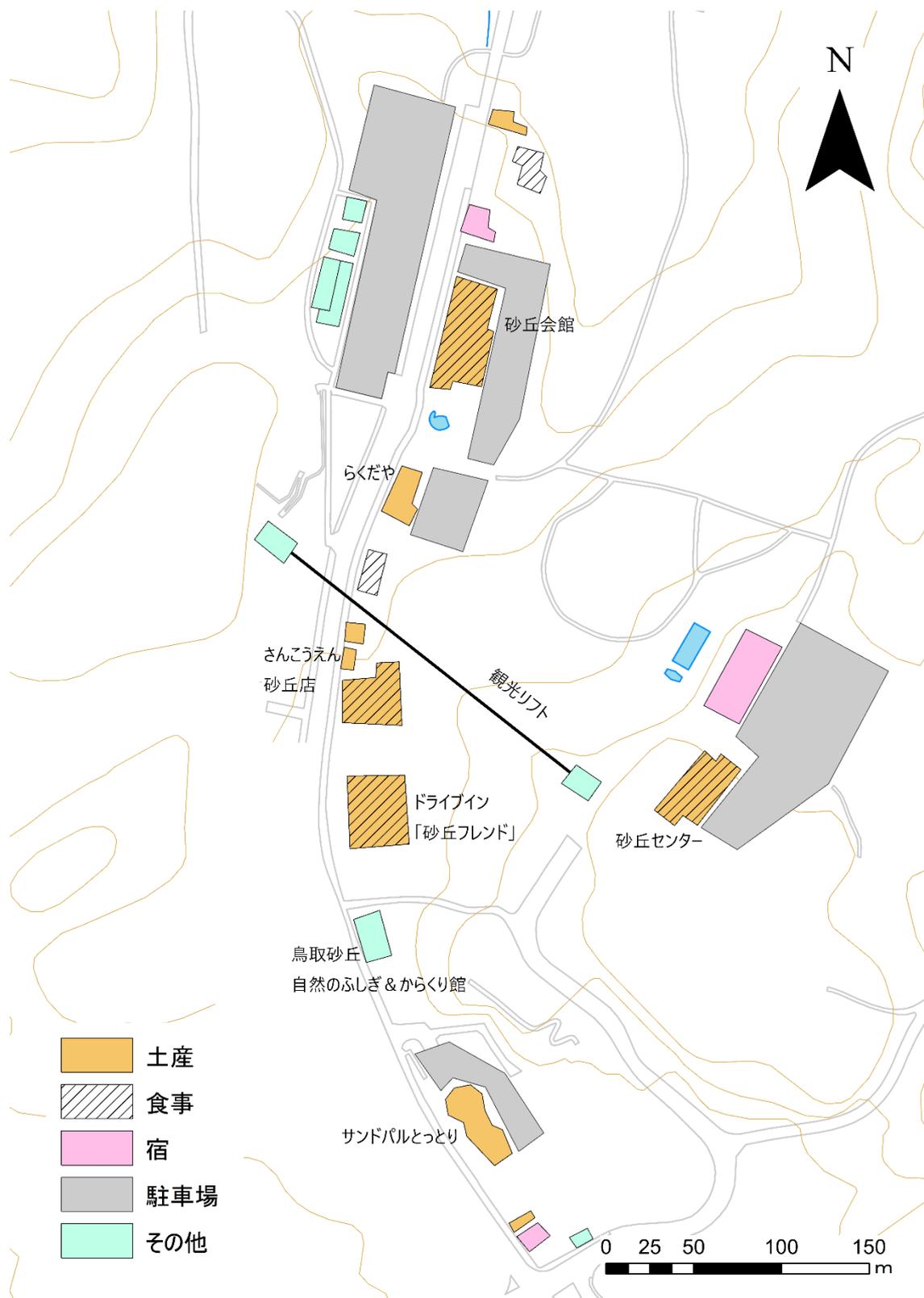


図 13 砂丘商店街の土地利用 (2010 年)  
 (住宅地図、聞き取り調査より作成)

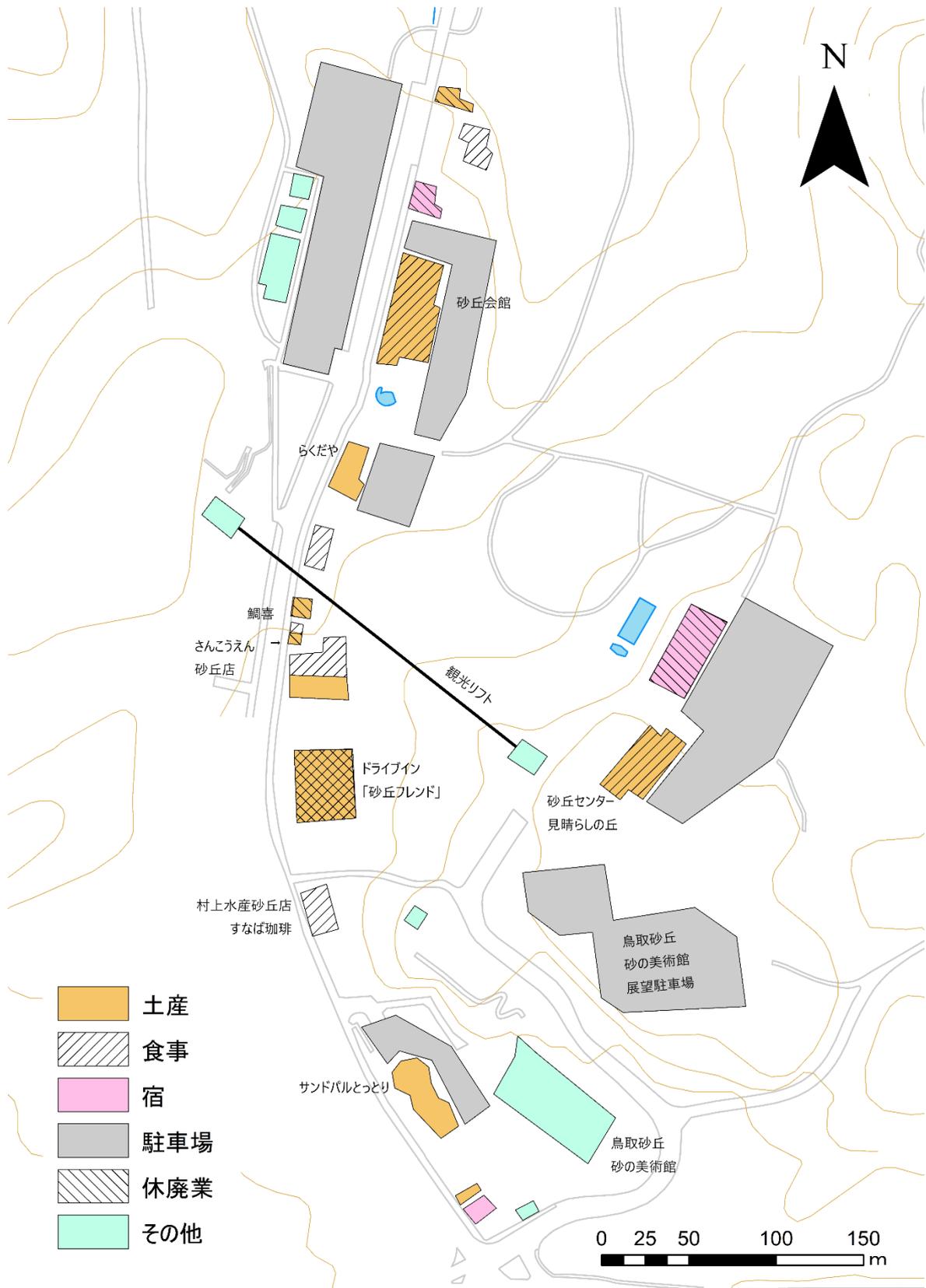


図14 砂丘商店街の土地利用 (2021年)  
 (住宅地図、聞き取り調査より作成)

年ともに、土産屋と飲食店が多く、宿泊施設が少ないことがわかる。この状況は約 20 年間大きく変化していない。鳥取砂丘においては、土産や飲食といった日帰り観光が中心で、宿泊してもらうことに重きを置いていないのではないかと考えられる。また、この 20 年間で大きな変化としては、2006 年に砂の美術館が開館したことが挙げられる。砂の美術館は毎年展示を変えており、聞き取り調査によると、リピーターの観光客も増えているということである。

2000 年と 2010 年の地図と比べると、2021 年には 6 店舗が休業していることが分かった。その中でも小規模な店舗が多いことがわかる。聞き取り調査によると、新型コロナウイルスによる休業はドライブイン「砂丘フレンド」のみで、他店舗は経営者が不在等の理由より、新型コロナウイルスが蔓延する以前から休業や廃業になっているとのことである。2013 年頃から観光客数が微減傾向にあったことから、砂丘商店街は小規模店舗を中心に徐々に衰退しつつあったと考えられる。

#### 4. おわりに

これまでの分析により、鳥取県には安定して観光客が訪れていることが分かった。国内の観光客では、県内観光客が最も多く、自家用車で簡単に訪れることができる地方からの訪問が多かった。しかし、鳥取砂丘においては県外観光客の割合が多くなっていた。海外からは直行便のある東南アジアからの観光客が多かったことが分かった。

次に、鳥取県の観光の今後の課題について述べる。まず、鳥取県のインバウンドの面では、米子空港との直行便に依存しているところがあるため、直行便が運休などした場合に大きな打撃を受ける。直行便の依存状態から脱却し、鳥取県外からでも海外の観光客に来てもらえるように、さらに鳥取県の魅力を発信していく必要がある。また、鳥取県全体では自家用車で観光客に頼っている傾向がみられる。国内外にかかわらず、多くの観光客に来てもらうためには、二次交通、すなわち空港や鉄道から観光地までの交通のさらなる充実が課題となっている。

鳥取砂丘では単に砂丘を歩く観光だけでなく、ヨガやセグウェイなどを砂丘で行うアクティビティもあり、さまざまな客層が楽しむことができると期待される。これらのアクティビティは地権者の理解を得て、自然保護法に則って行っている。また、海外観光客の増加に合わせてインバウンドの観光客に向けたホテル建設の計画を進めている。鳥取砂丘周辺にワークプレイスを建設し、企業誘致を行うことも計画している。これらのことにより観光目的の人だけでなく、ビジネス目的の人にも訪れる可能性がある。鳥取砂丘ではイベントを開催したり、砂の美術館で毎年展示を変えたりと、リピーターを呼び込むための工夫も行っている。鳥取砂丘は国の天然記念物として指定されていることもあり、今後新たな取り組みを行う際には、環境保全もあわせて行う必要がある。そのため鳥取砂丘の環境保全と観光資源としての活用を上手く調整し、盛り上げていく必要がある。

—謝辞—

本稿を制作するにあたり、鳥取県交流人口拡大本部観光交流局観光戦略課の福岡敬二様、鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課ジオパーク推進係主事の西村菜美様、鳥取県生活環境部緑豊かな自然課鳥取砂丘担当の居川凌様、鳥取砂丘ビジターセンター 山陰海岸ジオパーク認定ガイドの中川樹菜様、一般社団法人山陰インバウンド機構広報推進部の安達直樹様、一般社団法人山陰インバウンド機構マーケティング部の篠塚昌明様には大変お世話になりました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

---

注

<sup>1</sup> 東部：鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺（鳥取市（河原町、用瀬町、佐治町を除く））

浦富海岸・岩井温泉周辺（岩美町）

八頭周辺（鳥取市（河原町、用瀬町、佐治町）、八頭町、若桜町、智頭町）

中部：とっとり梨の花温泉郷周辺（倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町（旧北条町））

東伯耆周辺（北栄町（旧大栄町）、琴浦町、大山町（旧中山町））

西部：米子・皆生温泉周辺（米子市（淀江町の一部を除く）、日吉津村）

境港周辺（境港市）

大山周辺（南部町、伯耆町、米子市（淀江町の一部）、大山町（旧中山町を除く）、

江府町）

奥日野周辺（日南町、日野町）

○参考

・鳥取県ホームページ 観光入込動態調査（最終閲覧 2021. 12. 28）

<https://www.pref.tottori.lg.jp/70595.htm>

・鳥取砂丘の総合案内・観光ガイド | 鳥取砂丘ビジターセンター（最終閲覧 2021. 12. 28）

<https://www.sakyu-vc.com/jp/>

・砂の美術館ホームページ お客様の声（最終閲覧 2021. 12. 28）

<http://www.sand-museum.jp/customer/>

・砂の美術館ホームページ 砂の美術館とは（最終閲覧 2022. 2. 7）

<http://www.sand-museum.jp/about/>

・国土交通省中国地方整備局、2014、「鳥取自動車道全線開通による効果」（最終閲覧 2022. 2. 7）

<https://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/news/2014/141114press1.pdf>



